



福岡県

サステナブルファイナンス・フレームワーク

2023年3月

1 はじめに

(1) 福岡県の概要

福岡県(以下「本県」)は、筑前海、豊前海、有明海の3つの海に面し、国際的な物流拠点として、産業集積に強みを持つ地方公共団体です。更に、数多くの山地と、その間を流れる遠賀川、筑後川、矢部川、山国川等の河川、河川の流域に開けた肥沃な平野など、豊かな自然も本県の特徴です。環境を重視した投資を通じて持続可能な社会の実現を目指す「グリーンリカバリー」の考え方も踏まえ、本県の強みを活かしたSDGs関連施策を推進しています。

本県では、2022年3月に策定した「福岡県総合計画」「福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)」の下、地球温暖化対策や「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」という「ワンヘルス」の理念に沿った生物多様性保全の取組など、SDGsの達成に向けた取組を進めています。また、2022年8月に発足した水素による「グリーン成長」を目指す産学官連携組織「福岡県水素グリーン成長戦略会議」を中心に、太陽光発電など再生可能エネルギーの先進地域としての強みを生かし、再エネ由来の「グリーン水素」分野にも注力しています。

また、県内事業者のSDGsへの取組を「見える化」し支援するため、福岡県SDGs登録制度を2022年10月に開始したところです。

(2) 福岡県総合計画

本県は、2022年3月に県の行政運営の指針となる「福岡県総合計画」を策定しました。

本計画の将来像「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県」を目指したそれぞれの取組は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指したSDGsの理念と軌を一にするものであり、本計画の施策を着実に進めることにより、SDGsの達成につなげています。

<福岡県総合計画 基本方向(4つの柱)>

- 世界を視野に、未来を見据えて成長し、発展する
- 誰もが住み慣れたところで働き、長く元気に暮らし、子どもを安心して産み育てることができる
- 感染症や災害に負けない強靱な社会をつくる
- 将来の発展を支える基盤をつくる

(3)福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)

本県は、地球温暖化(気候変動)、生物多様性、食品ロス等の様々な環境問題の状況変化に的確に対応するため、福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)を2022年3月に策定しました。

環境総合ビジョンでは、第四次計画に続き、SDGsの考え方を取り入れるとともに、「環境と経済の好循環を実現する持続可能な社会へ」を本県の将来像に掲げ、グリーン社会の実現を推進するため、地球温暖化対策やワンドヘルスの理念に沿った生物多様性保全の取り組みなど、7つの柱を設定し、柱ごとに目指す姿を示しています。

<福岡県環境総合ビジョン 7つの柱>

1 経済・社会のグリーン化(柱1)

－技術・システム・ライフスタイルのイノベーション－

2 持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり(柱2)

－多様な主体による環境啓発活動や環境教育－

3 脱炭素社会への移行(柱3)

－地球温暖化防止と気候変動への適応－

4 循環型社会の推進(柱4)

－資源の効率的活用と廃棄物の適正処理－

5 自然共生社会の推進(柱5)

－生物多様性の保全・利用と「ワンドヘルス」の実現－

6 健康で快適に暮らせる生活環境の形成(柱6)

－心地よい空気・水・土・居住環境の保全－

7 国際環境協力の推進(柱7)

－県内の環境技術によるアジアの環境問題の改善－

(4)福岡県地球温暖化対策実行計画(第2次)

本県では、2017年3月に策定した福岡県地球温暖化対策実行計画に続き、2022年3月に福岡県地球温暖化対策実行計画(第2次)を策定しました。実行計画(第2次)では、中期目標として2030年度の温室効果ガス排出を2013年度比で46%削減すること、長期目標として2050年度までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指すことを掲げています。本計画に基づき、県民、事業者、市町村などと連携・協力して、地球温暖化対策を総合的・計画的に推進しています。

2 サステナブルファイナンス・フレームワーク

本県は、以下の原則・ガイドラインに基づきサステナブルファイナンス・フレームワーク(以下、本フレームワーク)を策定いたしました。

- ・ ICMA(国際資本市場協会)グリーンボンド原則 2021
- ・ ICMA ソーシャルボンド原則 2021
- ・ ICMA サステナビリティボンドガイドライン 2021
- ・ 環境省グリーンボンドガイドライン 2022 年版
- ・ 金融庁ソーシャルボンドガイドライン(2021 年 10 月)

本フレームワークに基づき、以下の債券の発行ができるものとし、これらを総称して「福岡県 ESG 債」とします。

グリーンボンド	適格グリーンプロジェクトに係る支出に充当する債券
ソーシャルボンド	適格ソーシャルプロジェクトに係る支出に充当する債券
サステナビリティボンド	適格グリーンプロジェクト及び適格ソーシャルプロジェクトに係る支出に充当する債券

本県では、「福岡県総合計画」、「福岡県環境総合ビジョン(第 5 次福岡県環境総合基本計画)」及び「福岡県地球温暖化対策実行計画(第 2 次)」に掲げるグリーン社会の実現のための施策を積極的に推進し、環境・社会課題の解決を図ることとしており、これらの取組を着実に進めていくための資金調達として福岡県 ESG 債を発行します。

また、福岡県 ESG 債発行を通じて、投資家層の拡大により安定的な資金調達につなげてまいります。

(1) 調達資金の用途

福岡県 ESG 債の発行による調達資金は、ICMA によるグリーンボンド原則 2021 及びソーシャルボンド原則 2021 における事業区分のうち以下に挙げるものを本件のグリーン適格またはソーシャル適格プロジェクト分類とし、該当するプロジェクトに充当します。対象となる適格プロジェクト例は表 1 および表 2 の通りです。

表 1【グリーンプロジェクト】

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	貢献する SDGs
再生可能エネルギー 環境目標: 気候変動の緩和	再生可能エネルギー設備 導入	7. エネルギーをみんなにそし てクリーンに 13. 気候変動に具体的な対 策を
省エネルギー 環境目標: 気候変動の緩和	県有施設の省エネ・高効 率化	7. エネルギーをみんなにそし てクリーンに 13. 気候変動に具体的な対 策を
自然資源・土地利用の環境維持 型管理 環境目標: 自然資源の保全	林道整備、造林事業、公 園整備、緑地の保全・創 出	11. 住みつつづけられるまち づくりを 15.陸の豊かさを守ろう
生物多様性の保全 環境目標: 生物多様性の保全	漁場の整備、藻場・干潟 の造成、底質環境の改善	14.海の豊かさを守ろう
クリーン輸送 環境目標: 気候変動の緩和	公用車の環境対応車の 導入	13. 気候変動に具体的な対 策を

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	貢献する SDGs
気候変動への適応 環境目標: 気候変動への適応	【水害対策】 ダム設備の改良、河川の改修、河川の堆積土砂撤去、ため池・用排水路・井堰等の農業用水利施設の改修、等	11. 住み続けられるまちづくりを 13. 気候変動に具体的な対策を
	【土砂災害対策】 砂防施設の整備、治山対策、道路防災対策、地すべり対策、等	
	【高潮・高波対策】 海岸・漁港の改修、等	

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	貢献する SDGs
<p>グリーンビルディング</p> <p>環境目標: 気候変動の緩和</p>	<p>県有施設の新築、改修</p> <p>※以下のいずれかの建物 認証又は所在自治体による環境性能に関する確認 を取得若しくは将来取得若しくは、更新予定の建物の 建設又は内装・設備の工事若しくは更新にかかる費用</p> <ul style="list-style-type: none"> -CASBEE 建築における S ランク、A ランク、B+ランク -BELS における 5 つ星以上 -DBJ Green Building 認証 における 3 つ星以上 -LEED 認証 における Platinum, Gold, Silver -BREEAM 認証 における Outstanding/Excellent/Very good -ZEB, Nearly ZEB, ZEB Ready, ZEB Oriented, ZEH-M, Nearly ZEH M, ZEH-M Ready, ZEH-M Oriented 	<p>7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>13. 気候変動に具体的な 対策を</p>

表2【ソーシャルプロジェクト】

ソーシャルボンド原則 プロジェクトカテゴリー (ソーシャル適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	対象となる人々	貢献するSDGs
手ごろな価格の基本的 インフラ設備 必要不可欠なサービス へのアクセス	児童福祉施設の整備 (含む助成)	児童・生徒	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
	教育関連施設・設備の整備	児童・生徒・教員	4. 質の高い教育をみんなに
	特別支援学校・施設の整備	障がいのある児童・生徒	3. すべての人に健康と福祉を 11. 住みつつづけられるまちづくりを
	庁舎等の整備	施設利用者及び福岡県民	11. 住みつつづけられるまちづくりを
	高齢者福祉施設等の整備	高齢者	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう
	障がい者施設等の整備	障がい者	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住みつつづけられるまちづくりを
	警察施設・設備の整備	施設利用者及び福岡県民	11. 住みつつづけられるまちづくりを
	農業水利施設の整備	農業従事者	11. 住みつつづけられるまちづくりを

ソーシャルボンド原則 プロジェクトカテゴリー (ソーシャル適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	対象となる 人々	貢献する SDGs
手ごろな価格の基本的 インフラ設備	インフラの老朽化・防災・ 交通安全対策等	施設利用者及び地 域住民	11. 住みつつづけられ るまちづくり 13. 気候変動に具体的 な対策を
	県施設の老朽化・防災 対策	施設利用者	11. 住みつつづけられ るまちづくり
必要不可欠なサービス へのアクセス 社会経済的向上とエン パワーメント	バリアフリーの推進	障がい者・ 高齢者	10. 人や国の不平等を なくそう
手ごろな価格の住宅	公営住宅の整備(含む 助成)等	公 営 住 宅 を必要とす る人々	3. すべての人に健康と 福祉を 11. 住みつつづけられ るまちづくりを

(2)プロジェクトの評価及び選定プロセス

本フレームワークにおいて対象となる各事業は、本県の総務部財政課が候補を選定し、県庁内関係各部との協議を経て最終決定します。

対象となる各事業はいずれも、地方自治法及び関係諸法令に基づき策定され、必要な議会での審議を経て議決され、予算として計上されるものです。

なお、環境面および社会面から重大な負の影響を直接的に生じさせることが明らかになった事業については、その対象から除外します。

(3)調達資金の管理

・調達資金と資産の紐づけ方法と追跡管理の方法

地方自治法第 208 条に基づく会計年度独立の原則に基づいて、地方公共団体における各会計年度における歳出はその年度の歳入(地方債によって調達された資金もこれに含む)をもってこれに充てられます。また、個別プロジェクトの充当状況について総務部財政課と各部予算決算担当課が連携し、充当状況の把握を行い、発行超過等が起こらないよう、適切に管理します。こうしたことにより、福岡県 ESG 債の発行により調達された資金は、当該会計年度中に適格プロジェクトに充当されます。

会計年度の終了時には、適格プロジェクトを含む本県の全ての歳入と歳出について執行結果と決算関係書類が作成され、県の監査委員による監査を受けます。その後、決算関係書類は監査委員の意見を付して県議会に提出され、承認されることとなります。

・調達資金の追跡方法に係る内部統制

福岡県 ESG 債の発行による調達資金の適格プロジェクトへの充当については、本県の会計制度に基づいた歳入予算の経理区分で分類します。また、充当するプロジェクトと支出額を明確にしながら管理します。

・未充当資金の管理方法

未充当資金が発生した場合には充当されるまで、本県の規定に基づき、現金または安全性の高い金融資産で運用します。

(4)レポーティング

・資金充当状況レポーティング

充当するプロジェクト名及び充当金額を本県ウェブサイトで、起債翌年度に開示します。なお、調達資金の充当計画に大きな状況の変化が生じた場合には、速やかに開示します。

・インパクトレポーティング

プロジェクトの実施による環境・社会的課題の解決に関する環境改善効果や社会的成果を記載するレポーティングについては、表 3 及び表 4 の指標を、実務上可能な範囲内で、本県のウェブサイト上で起債翌年度に開示します。なお、プロジェクトに関し、当初想定から大きな状況の変化が生じた場合には、速やかに開示します。

表 3 【グリーンプロジェクト】

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	レポーティング指標例
再生可能エネルギー 環境目標： 気候変動の緩和	再生可能エネルギー設備 導入	CO ₂ 削減量(t-CO ₂)
省エネルギー 環境目標： 気候変動の緩和	県有施設の省エネ・高効 率化	CO ₂ 削減量(t-CO ₂)
自然資源・土地利用の環境維持 型管理 環境目標： 自然資源の保全	林道整備、造林事業、公 園整備、緑地の保全・創 出	林道密度(m/ha)、森林整備 面積(ha)、緑化面積(m ²)、 植栽本数、整備した公園の 名称、等
生物多様性の保全 環境目標： 生物多様性の保全	漁場の整備、藻場・干潟 の造成、底質環境の改善	実施内容、整備・実施場所、 箇所数、設置面積(ha)、対 象魚種増産量(t)、等
クリーン輸送 環境目標： 気候変動の緩和	公用車の環境対応車の 導入	CO ₂ 削減量(t-CO ₂)

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	レポート指標例
気候変動への適応 環境目標: 気候変動への適応	【水害対策】 ダム設備の改良、河川の改修、河川の堆積土砂撤去、ため池・用排水路・井堰等の農業用水利施設の改修、等	実施したプロジェクトの箇所名・箇所数、実施内容、想定被害面積(m ² 、ha)、整備延長(m)、防護面積(m ² 、ha)、等
	【土砂災害対策】 砂防施設の整備、治山対策、道路防災対策、地すべり対策、等	実施したプロジェクトの箇所名・箇所数、実施内容、整備面積(m ² 、ha)、整備延長(m)、防護面積(m ² 、ha)、等
	【高潮・高波対策】 海岸・漁港の改修、等	実施したプロジェクトの箇所名・箇所数、実施内容、整備延長(m)、防護面積(m ² 、ha)、等

グリーンボンド原則プロジェクト カテゴリーと環境目標 (グリーン適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	レポーティング指標例
<p>グリーンビルディング</p> <p>環境目標: 気候変動の緩和</p>	<p>県有施設の新築、改修</p> <p>※以下のいずれかの建物認証又は所在自治体による環境性能に関する確認を取得若しくは将来取得若しくは、更新予定の建物の建設又は内装・設備の工事若しくは更新にかかる費用</p> <ul style="list-style-type: none"> -CASBEE 建築における S ランク、A ランク、B+ランク -BELS における 5 つ星以上 -DBJ Green Building 認証 における 3 つ星以上 -LEED 認証における Platinum, Gold, Silver -BREEAM 認証における Outstanding/Excellent/Very good -ZEB, Nearly ZEB, ZEB Ready, ZEB Oriented, ZEH-M, Nearly ZEH M, ZEH-M Ready, ZEH-M Oriented 	<p>認証取得状況、認証ランク、CO₂削減量(t-CO₂)</p>

表4【ソーシャルプロジェクト】

ソーシャルボンド原則 プロジェクトカテゴリー (ソーシャル適格プロジェクト分類)	適格プロジェクト例	レポートニング指標例
手ごろな価格の基本的 インフラ設備 必要不可欠なサービス へのアクセス	児童福祉施設の整備 (含む助成)	整備事業内容、整備された施設・設備の件数、生徒・児童数
	教育関連施設・設備の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数、学生数
	特別支援学校・施設の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
	庁舎等の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
	高齢者福祉施設等の整備	整備事業内容、整備された施設の床数、利用者数
	障がい者施設等の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数、利用者数
	警察施設・設備の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
	農業水利施設の整備	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
手ごろな価格の基本的 インフラ設備	インフラの老朽化・防災・交通安全対策等	整備事業内容、整備箇所名
	県施設の老朽化・防災対策	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
必要不可欠なサービス へのアクセス 社会経済的向上とエン パワーメント	バリアフリーの推進	整備事業内容、整備された施設・設備の件数
手ごろな価格の住宅	公営住宅の整備(含む助成)等	整備事業内容、整備された施設・設備の件数

(5)外部レビュー

本フレームワークと各原則・ガイドラインとの適合性に関するセカンドパーティー・オピニオンを株式会社格付投資情報センターから取得しています。